



本戦出場を決めて喜ぶ選手たち

先頭集団を引っ張る競走部の精鋭



正月の箱根ではきっとやってくれることでしょう

正月恒例第98回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)への出場権を決める予選会が10月23日に行われ、明治大学体育会競走部は見事1位で本戦への出場権を獲得しました。

予選会の舞台は、昨年同様新型コロナウイルス感染拡大防止のため陸上自衛隊立川駐屯地内の周回コース。

参加校41校が挑んだ今回の予選会は、2kmを過ぎた時点で本学手嶋杏丞選手(情報コミュニケーション学部4年)、鈴木聖人選手(政治経済学部4年)の2選手が日本人先頭集団をけん引する走りを見せ、10km通過地点で1位と順位を上げ、そのまま10時間33分22秒と、2位校に4分16秒の大差をつけた堂々のトップ通過という成績で、4年連続63回目の本戦出場を決めました。

今季は、前述のキャプテン鈴木聖人選手、副キャプテン手嶋杏丞選手の4年生コンビが強力で、名実ともにチームをリードする存在感を發揮。その他加藤大誠選手、櫛田佳希選手(3年)、児玉真輝選手(2年)も他校のエース級と渡り合える力があり、橋本大輝選手(4年)、小澤大輝選手(3年)も今季好調と、充実した戦力で正月の本大会に臨みます。

前回は、26秒及ばずにシードを逃していますので、治道からの集合応援はできませんが、お茶の間から校友の皆さんのエールを届け、大活躍を後押しして参りましょう。

順位	大学名	記録
1	明治大学	10時間 33分 22秒
2	中央大学	10時間 37分 38秒
3	日本体育大学	10時間 39分 32秒
4	山梨学院大学	10時間 41分 15秒
5	神奈川大学	10時間 41分 57秒
6	法政大学	10時間 42分 12秒
7	中央学院大学	10時間 43分 08秒
8	駿河台大学	10時間 44分 47秒
9	専修大学	10時間 44分 58秒
10	国土館大学	10時間 45分 41秒

順位	大学名	最新タイム
1	駒澤大	28:23.00
2	早稲田大	28:34.81
3	明治大	28:36.50
4	中央大	28:39.64
5	東海大	28:40.90
6	青山学院大	28:42.50

※画像は明治大学 WEB サイトより転載しました

明治大学校友会名古屋地域支部会報誌

MU News

Meiji University News

2021.12

Vol.41.42 合併号

第98回箱根駅伝
予選会を堂々のトップ通過
4年連続63回目の本戦出場へ
正月の箱根路を勇往邁進だ!

Meiji University News 年2回/5月・11月発行 発行日: 2021年12月 発行所: 明治大学校友会 名古屋地域支部 編集: 広報委員会 〒460-0012 名古屋市中区千代田五丁目7番5号 パークヒルズ千代田 8F TEL 052-243-6112 FAX 052-243-6130 http://aichi.meiji-shikon.net

MU News 2021.12

- 日時/令和3年11月7日(日)午前8:05スタート
- 区間/熱田神宮~伊勢神宮内宮 8区間106.8km
- 区間順位[カッコ内は総合順位]

《10000mタイム》

1区 [8位]	9位	手嶋 杏丞	(情コミ4年 宮崎日大)	28:13.70
2区 [4位]	2位	児玉 真輝	(文2年 鎌倉学園)	28:22.27
3区 [6位]	10位	富田 峻平	(経営3年 八千代松陰)	28:35.41
4区 [3位]	3位	小澤 大輝	(政経3年 韭山)	28:38.63
5区 [7位]	10位	尾崎 健斗	(商1年 浜松商)	29:40.89
6区 [3位]	4位	鈴木 聖人	(政経4年 水城)	28:09.24
7区 [4位]	4位	橋本 大輝	(経営4年 須磨)	29:40.32
8区 [7位]	15位	加藤 大誠	(経営3年 鹿児島実業)	29:08.05

10月23日の第98回箱根駅伝予選会で、首位通過を果たした体育会競争部。2位に4分以上の大差をつけ、日本人トップ集団にレース終盤まで7人が残る圧勝だった。

勢いそのままに迎えた全日本大学駅伝。1区はトップと16秒差の9位発進。2区では児玉真輝が4位に上がり、3区で6位に後退。4区では小澤大輝が区間3位の力走で3位に浮上。5区で7位に落ちるも、6区エース鈴木聖人で再び3位に上がった。7区を終えトップと1分37秒差の4位と、優勝へのかなしい望みを持って展開であったが、予選会日本人2位(全体9位)に入った加藤大誠が失速し、悲願の初優勝はならず、7位に終わった。

この屈辱は、全国の校友注目の中、必ずや正月の箱根路で晴らしてくれることでしょう。

今シーズンもラグビーが熱い! ~3季ぶり王座奪還を目指して~



関東大学ラグビー対抗戦3位、
大学選手権で早大、
帝大にリベンジだ!

※画像・飯沼 キャプション:主将・飯沼蓮 帝京大戦より

『MEIJI PRIDE』

4年生のミーティングの最後に、今季のスローガンを定めた。その経緯を主将の飯沼蓮(経営4年 日川)は「明治は伝統があってファンに愛されていて、優勝が期待されているチームなので、プレーだけでなく私生活でももう一度、明治の誇りを持ってやる。そして(1年時に大学選手権で)優勝して、2位、ベスト4と結果が落ちているので、今季の結果が大切になってくる。もう1回、強い明治を作り上げて優勝して明治のプライドを取り戻すという意味で決めました」と語気を強めた。(4years 3/18より)

編集後記

今回は初の試みで、合併号として発行いたしました。次から次へと発生する変異種もあり、なかなか根本的解決の道が定まらないコロナ禍ですが、2022年とは何か校友の皆さんと県支部総会の場で再会したい。そんな想いが募るばかりです。そして、2023年には大きなイベント開催が決定しました。詳細は次号で特集する予定です。ご期待くださいませ。

第53回全日本大学駅伝
チームの目標5位以内も、結果は7位
屈辱を晴らすべく、
正月の箱根路に期待

名古屋地域支部年会費の振込先
[郵便振込] ※振込料は会員負担です。
年会費 / ¥6,000
口座番号 / 00830-1-72587
加入者名 / 明治大学校友会名古屋地域支部
※加入者名義変更にご注意ください。

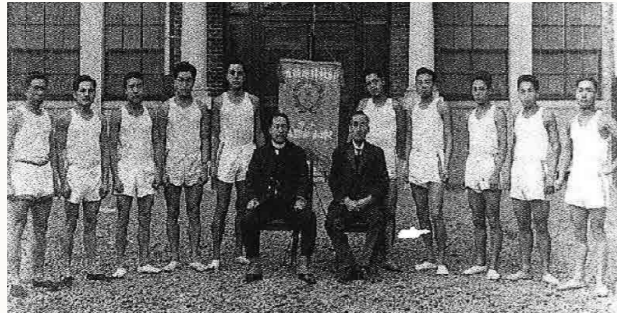
名古屋地域支部事務局
〒460-0012
名古屋市中区千代田五丁目7番5号
パークヒルズ千代田 8F
日本ゼネラルフード株式会社 総務部内
TEL:052-243-6112
FAX:052-243-6130

校友会愛知県支部
ホームページ広告バナー広告
協賛企業大募集

タイムリーな情報発信で、
校友の絆を深めています!
ホームページアドレス: <http://aichi.meiji-shikon.net>
ホームページに関するお問い合わせ
広報委員会: 加藤 090-8738-3530

明治大学と箱根駅伝 ～第100回大会優勝を祈願して

1907年(明治40年)に創部された明治大学体育会競走部は、1919年に当時の部員(沢田英一)らが唱えた「アメリカ大陸横断駅伝」創設のアイデアが転じて発足した箱根駅伝のルーツ校である。



※写真: 明治大学競走部の第2回箱根駅伝優勝メンバー<wikipediaより>



※写真: 第86回箱根駅伝5区山なりに挑む明治大学の選手<wikipediaより>

第1回大会の出場校はたったの4校で、明治大学(2位)の他には、優勝した東京高等師範学校(現筑波大)、3位は早稲田大学、4位は慶応義塾大学という豪華な顔ぶれ。当然、この頃はまだシード権といったものはなく、出場校も10校前後と今より小さい規模で行われていた。

第2回大会で初優勝(全7チーム)を飾ると、第5回(全9チーム)・6回大会(全10チーム)と2連覇するなど、明治大学は箱根駅伝をリードする存在であった。

出場校が15校となった第31回大会(1955年)以降、中央大学と日本大学が1位2位を争う形が続き、第41回大会(1965年)からは順天堂大学が、第49回大会(1973年)からは大東文化大学などが上位を占める形となった。そしてついに、第51回大会(1975年)から第59回大会(1983年)まで、明治大学は箱根駅伝の本戦から姿を消すことになった。

第60回大会(1984年)から再び箱根の地に踏み入れるも下位に甘んじる年が続き、そして、68回大会(1992年)から80回大会(2004年)まで、箱根駅伝不出場となってしまった。

第85回大会(2009年)で5位に浮上すると、第88回大会(2012年)には3位と順位を上げ、シード権内に入ることも多くなってきた。第96回大会(2020年)は箱根駅伝の予選会から勝ち上がり6位と大健闘。5年振りのシード権を獲得しました。今年の第97回大会では四強とも言われ、72年ぶりの優勝への期待が膨らんだが、11位とシード権を逃す結果となった。

明治大学体育会競走部(駅伝)は学内の強化指定部とされており、全国化も検討されている第100回の記念大会となる2024年1月の箱根駅伝で優勝すべく、山本佑樹駅伝監督の下で力を蓄えている。



※写真: 区間新記録を樹立した阿部弘輝主将<明治大学HPより>

【箱根駅伝の記録】

- 出場回数 61回
- シード権獲得回数 14回
- 総合優勝回数 7回
- 往路優勝回数 5回
- 復路優勝回数 5回
- 区間賞獲得数 51回

速報

2022年度 愛知県支部総会講演会決定 競走部園原監督がやってくる!

2022年6月4日(土)開催 於:名古屋東急ホテル

講演会

古豪から強豪 そして頂点へ Mの継走 挑戦2024

講師

園原 健弘 監督(明治大学体育会競争部)



プロフィール

2016年から明治大学競争部競歩コーチ。長野・飯田高校から明治大学入学。2年時より関東IC 10000M競歩3連覇。3年時にはユニバーシアードエドモントン大会、第1回世界陸上ヘルシンキ大会代表に。箱根駅伝60回・61回大会出場。卒業後はアシックスで競技を続け1992バルセロナ五輪代表に。現役引退後は日本陸連強化部競歩部長としてアトランタ五輪コーチ、明治大学コーチを歴任。2016年より本学コーチ復帰。日本陸連公認コーチ。日本体育協会公認コーチ。2019年より明治大学競走部監督に就任。

夢の競演! 明治大学出身の著名人で箱根駅伝優勝を目指す!

往路

復路

1区	北川景子(女優) 圧倒的なビジュアルでスタート前から他チームを圧倒するとともに、全国の駅伝ファンに明治大学の存在感を見せつける。5区で2区にタスキを繋ぐ。	星野仙一(プロ野球) 大差がつき気の緩みが見受けられたチームに闘志みなぎる走り再び闘魂を注入。星野先輩の走りチームが燃える集団に生まれ変わりトップを維持して7区に。	6区
2区	長友佑都(サッカー日本代表) 明治が誇る世界の長友佑都が試合でも見せる無尽蔵なスタミナを発揮し、エース区間の2区で一気に4人抜きを見せトップで3区にタスキを繋ぐ。	向井理(俳優) 大河ドラマ「麒麟がくる」で見せたシリアスな演技さながらに、与えられた役割を見事に演じ切り、トップのまま8区にタスキを渡す。なお、この走りで多数の女性視聴者が明治ファンに鞍替え。	7区
3区	ビートたけし(コメディアン) 順位を3位に落とすも、沿道の観客とテレビの視聴者を笑いの渦に巻き込み、優勝を至上命題として前のめりになっているチームが冷静になる。	安住伸一郎(アナウンサー) 視聴者の心理を巧みに読み取る才能を活かして2位以下の他チームとの心理戦を巧妙に制し、差を詰められるもトップを維持して9区にタスキを繋ぐ。	8区
4区	水谷隼(卓球日本代表) オリンピックメダリストの勝負強さと粘り強さをいかんなく発揮し、激しいデッドヒートを制しトップで5区にタスキを繋ぐ。	高倉健(俳優) 表情を変えずに黙々と走るその姿のみで、チームそして沿道および視聴者に明治魂を強烈に植え付け、最終10区にトップでタスキを繋ぐ。	9区
5区	植村直己(登山家) 各チームが山登りのスペシャリストを揃える5区であるが、世界の山を制したこの先輩にかなうはずもなく、圧倒的な差をつけ往路優勝で1日目を終える。	村山富市(第81代内閣総理大臣) ここまで繋いできたタスキに込められたチームの想いのみならず、コロナに苦しみながら日本で暮らす全ての人の想いを背負い、明日に向かって「前へ」進もうというメッセージを込めた走りで、見事総合優勝を果たす。	10区